

シンポジウム | シンポジウム・パネルディスカッション：シンポジウム

📅 2024年7月19日(金) 15:25 ~ 16:20 📍 第1会場 (カクイックス交流センター 1階 県民ホール)

[SY6] 能登半島地震 2-① 亜急性期

座長:有嶋 拓郎(藤田医科大学 岡崎医療センター 救命総合内科)、山内 聡(仙台市立病院 救急科・救命救急センター)

16:05 ~ 16:15

[SY6-05] 日本赤十字社による令和6年能登半島地震への救護の全体像

*田口 茂正^{1,5}、稲田 眞治^{2,5}、中村 光伸^{3,5}、清田 和也¹、高階 謙一郎⁴ (1. さいたま赤十字病院 高度救命救急センター、2. 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 救命救急センター、3. 前橋赤十字病院 高度救命救急センター、4. 京都第一赤十字病院 救命救急センター、5. 日本赤十字社救護員育成委員会)

[背景]日本赤十字社（以下日赤）は本社主導で2020年度から救護員育成体系を再構築し、過去の教訓から日赤災害医療コーディネート体制を再構築した。教育では被災地の保健医療福祉調整体制のもと、多組織と共同し、被災者、被災地の医療者、被災地の行政に寄り添った対応を重視した。[活動の実際]日赤病院からのDMATやDMATロジスティクスチームの派遣、派遣元のDMAT調整本部に人員派遣をすると同時に、石川県および隣県からの医療救護班を1月2日より派遣した。3日には全国からの派遣体制とし、日赤災害医療コーディネートチームを県庁、各階層の保健医療福祉調整本部、および日赤石川県支部に常駐させ、日赤救護班やこころのケア、物資、ボランティアなどのリソースを被災者に提供するための調整体制を敷いた。3月14日に輪島市での引き継ぎまで全社での情報共有体制を維持し、フェーズに応じた救護活動を心がけた。初動、人材、引き継ぎなど課題も含め、当社の救護活動の全体像を共有し今後の各組織連携につなげたい。